授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 2364 号

Endocrinological and Symptomatic Characteristics of Patients with Late-onset Hypogonadism Classified by Functional Categories Based on Testosterone and Luteinizing Hormone Levels

総テストステロン値・LH 値に基づく LOH(加齢性性腺機能低下症)症状を主訴とした患者背景の検討

石川 圭祐（いしかわ　けいすけ）

博士（医学）

論文審査結果の要旨
本論文は、加齢性腺機能低下症（LOH）症状を有する患者をテストステロン、LH によって分類し各群の特性を研究した初めての論文である。以前ヨーロッパでの研究で一般男性を対象に末梢性低下群、中枢性低下群、代償性正常群、正常群の特性を研究した報告があるが、これまで LOH 患者におけるテストステロン、LH による患者分類での特性を調べた大規模研究はない。 LOH 患者は精神症状、身体症状、性機能症状等様々な症状を訴え、一般的には LOH 症候群はテストステロン低下に伴う病態として考えられているが、テストステロンが正常であっても LOH 症状を有する患者がいるという報告やテストステロンが低値でも LOH 症状を訴えない患者もいるという報告がある。そのような観点からテストステロン低下群（末梢性低下群、中枢性低下群）での比較、テストステロン正常群（代償性正常群、正常群）での比較を行い患者背景を検討すること非常に意義がある。 本研究では LOH 症状を訴える患者の大部分は正常群に分類され、テストステロンが低い患者では末梢性低下群よりも中枢性低下群のが多いことが分かった。 また正常群と代償性正常群との比較では年齢調整後でも DHEA-S と IGF-1 が代償性正常群で有意に低く、末梢性低下群と中枢性低下群の比較では、年齢調整後でもテストステロンと DHEA-S が、末梢性低下群で有意に低く、質問票では AMS 性機能スコアが末梢性低下群で有意に悪かった。内分泌学的違いが持続することは各群間において今後 LOH 関連症状も差が出てくる可能性を示唆する。テストステロンと LH によって患者を分類することは今後の LOH 治療において非常に重要であることを始めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。 よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。